

検索方法

検索

参議院

House of Councillors,
The National Diet of Japan

文字サイズの変更

標準

拡大

最大

サイトマップ

よくある質問

リンク集

English

トップページに戻る

[トップ](#) > [参議院の動き](#) > [平成23年の参議院の動き](#) > [選挙制度改革検討会\(第2回\)](#)

議員情報

今国会情報

ライブラリー

議案情報

会議録情報

請願

質問主意書

参議院公報

参議院のあらまし

国会体験・見学

国際関係

調査室作成資料

参議院審議中継
(別ウィンドウで開
きます)特別体験プログラ
ム

キッズページ

参議院の動き

選挙制度改革検討会(第2回)

平成23年4月15日

平成23年4月15日(金)、西岡議長、尾辻副議長及び各会派の代表者が出席して選挙制度改革に関する検討会(第2回)が開会されました。



まず、各会派の代表者より、選挙制度改革について、各会派における検討状況等が述べられ、その後、西岡議長は、個人の候補者の立候補、総定数の削減などを考慮した「たたき台」の改訂案を示し、各会派に検討を要請しました。

[利用案内](#) | [著作権](#) | [免責事項](#) | [ご意見・ご質問](#)

All rights reserved. Copyright(c), House of Councillors, The National Diet of Japan

参議院選挙制度の見直しについて（たたき台）

参議院議長 西岡 武夫

昨年12月に提示した「参議院選挙制度の見直しについて（たたき台）」においては、個人の候補者の立候補を認めるかどうか、総定数を削減するかどうかは、今後検討を行うこととしていた。

まず、個人の候補者の立候補については、その重要性に鑑み、単記投票制（個人名投票）を採用すべきとの考えに至った。

次に、総定数の削減については、各会派の議論に委ねることとするが、一部の会派において総定数の削減を行うべきとの意見があることを考慮し、総定数を200とした場合のブロック別配分案を併せて提示する。

以上により、昨年12月に提示した「たたき台」を次のように改訂することとする。

現行の全国単位の比例代表選出議員の選挙及び都道府県単位の選挙区選出議員の選挙を廃し、総議員につき、全国9つのブロック単位の選挙区に人口比例により定数を配分した上で単記投票制（個人名投票）の選挙により選出することとする。

9ブロック

ブロック名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東信越	茨城、栃木、群馬、新潟、長野
南関東	埼玉、千葉、神奈川、山梨
東京	東京
中部	富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重
関西	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

ブロック制を採用した場合の議席配分(9ブロック・定数242)

9ブロック(第28次地方制度調査会が提示した区域例を参考としたブロック)

ブロック名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東信越	茨城、栃木、群馬、新潟、長野
南関東	埼玉、千葉、神奈川、山梨
東京	東京
中部	富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重
関西	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

ブロック	平成22年 国勢調査人口 速報値	配当基数	配当議員数	最も一票の価値 の重い選挙区と の較差
南関東	23,324,348	44.078	44	1.026
関西	21,706,758	41.021	42	1.000
中部	17,372,837	32.831	32	1.050
九州・沖縄	14,596,977	27.585	28	1.009
東京	13,161,751	24.873	24	1.061
中国・四国	11,539,104	21.807	22	1.015
北関東信越	11,511,707	21.755	22	1.012
東北	9,335,088	17.641	18	1.003
北海道	5,507,456	10.408	10	1.066
合計	128,056,026		242	

(注) 配当基数とは、総定数を各ブロックの人口により按分したものであり、次の算式により求められる。

$$\text{配当基数} = \text{総定数} \times \left\{ \frac{\text{当該ブロックの人口}}{\text{全ブロックの人口}} \right\}$$

(注) 昨年12月に提示した各ブロックの配当議員数は、第22回参議院議員通常選挙(平成22年7月11日執行)当日有権者数に基づき試算したのに対し、今回は、本年2月25日に公表された平成22年国勢調査人口速報値に基づき試算した。その結果、昨年12月に提示した各ブロックの配当議員数から、関西ブロックで2増し、北海道ブロックで2減している。

ブロック制を採用した場合の議席配分(9ブロック・定数200)

9ブロック(第28次地方制度調査会が提示した区域例を参考としたブロック)

ブロック名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東信越	茨城、栃木、群馬、新潟、長野
南関東	埼玉、千葉、神奈川、山梨
東京	東京
中部	富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重
関西	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

ブロック	平成22年 国勢調査人口 速報値	配当基数	配当議員数	最も一票の価値 の重い選挙区と の較差
南関東	23,324,348	36.428	36	1.065
関西	21,706,758	33.902	34	1.050
中部	17,372,837	27.133	28	1.020
九州・沖縄	14,596,977	22.798	24	1.000
東京	13,161,751	20.556	20	1.082
中国・四国	11,539,104	18.022	18	1.054
北関東信越	11,511,707	17.979	18	1.052
東北	9,335,088	14.580	14	1.096
北海道	5,507,456	8.602	8	1.132
合計	128,056,026		200	

(注)配当基数とは、総定数を各ブロックの人口により按分したものであり、次の算式により求められる。
 配当基数＝総定数×{(当該ブロックの人口)÷(全ブロックの人口)}